

ごあいさつ

このたび昭和館では、「初公開 国立プロシア文化財団絵画アーカイブ所蔵 ベルト・ローゼ写真展『希望の光』～ドイツ人特派員が撮った昭和26年の日本～」と題し、特別企画展を開催する運びとなりました。

ドイツ連邦共和国・ベルリン市にある国立プロシア文化財団絵画アーカイブが所蔵する約1,200万点におよぶ写真資料のうち、『ノイエ・イルストリアテ』誌特派員であったベルト・ローゼが撮影した写真約100点を厳選し展示します。

ベルト・ローゼ(1911-1995)は昭和26年(1951)、戦後初めてのドイツ人カメラマンとして来日し、戦後復興を遂げつつあった日本を旅して、様々な風景と人々を写真に残しています。敗戦国という同じ立場にあったドイツ人の目に、当時の日本は、日本人はどのように写ったのでしょうか。来日前、広島取材を思い立った彼が想像したのは、悲観的になり無気力の中に沈んでいる人々の姿でした。しかし、彼が配信した記事には「これほど明るい笑顔を、……再建、再興において、これほど市民が活発に努力している町を、わたしは他に知らない」と記されています。広島で何を見たのでしょうか。

敗戦後の焼け跡や、復興を遂げつつある日本を記録した写真は数多く残されており、昭和館においても様々な展覧会を開催してきました。しかし、その多くは戦後処理のために駐留していたアメリカを中心とした連合国や、一部の日本人による記録が主でした。本展では、日本と同様に敗戦国の立場であったドイツ人が見た、終戦より6年の月日が経ち、復興を遂げつつあった日本の姿を、ローゼが記した記事とともに紹介します。

これらの写真はすべて日本初公開であり、ローゼの没後10年、さらに「日本におけるドイツ年」にあたるこの年に、昭和館において氏の展覧会を開催することは、誠に意義深いものと考えます。

ベルト・ローゼ略年譜

- 1911年 ドレスデンに生まれる
- 1926年 記念碑の撮影について書かれた記事が、写真雑誌「STRAP」にはじめて掲載される
- 1931年 ツァイス・イコン写真コンクールにおいて一等を受賞
- 1934年 フリーランスの写真ジャーナリストになる
- 1941年 戦場報道員として徴兵を受ける
- 1946年 米軍軍政府の雑誌「ホイテ」の仕事をする
- 1947年 西ドイツでの戦後初の写真雑誌「フォト・シュピーゲル」誌の発行人に就任
- 1951年 日本に関する丹念なルポルタージュ取材
- 1953年 「今日のオーストラリアと南太平洋」をフランクフルトのウムシャウ社から出版
- 1965年 レーバークーゼンにて、『ビルトジャーナリスト』誌と「フォトブレッター」誌の発行人になる
- 1975年 ドイツ写真協会(DGPh)の歴史部門の座長に就任
- 1983年 ブルクハウゼン写真博物館設立に協力
- 1995年 ブルクハウゼンにて逝去



B E R R I N D L O H S E